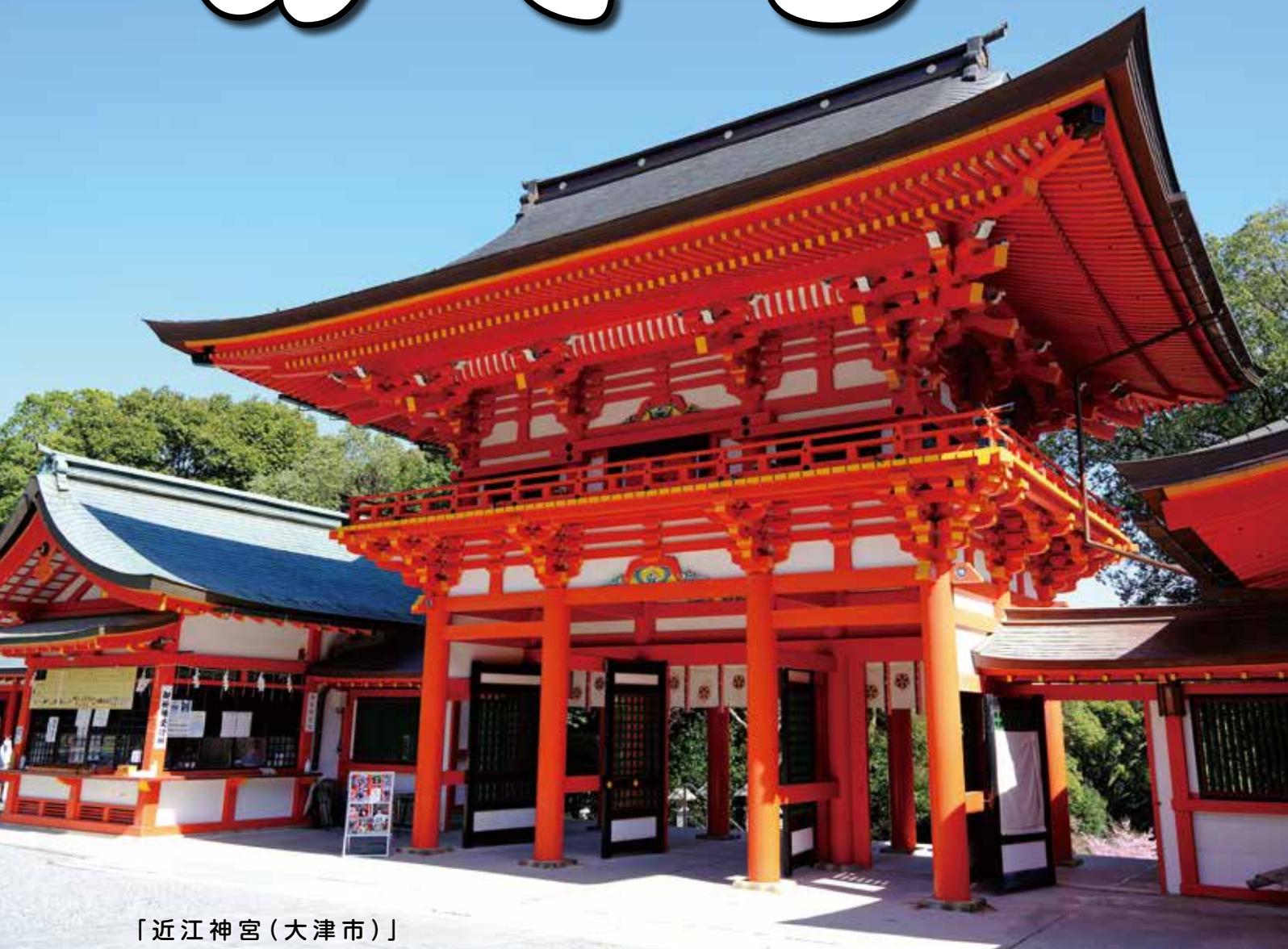


めでる



「近江神宮（大津市）」

Contents

- 2 特集
令和4年度
春の宿泊研修 in 大津市・湖南地域方面
- 訪問先の皆様からのメッセージ
 - 勉強会（講演・意見交換会）に参加して
 - 宿泊研修に参加して（学生の声）
- 17 ● 滋賀県医師キャリアサポートセンター
● 医師会とわたし
- 13 紹介
- 滋賀医科大学開学50周年
 - 将来県内で地域医療に貢献する意思を持った医学生に対する滋賀県の取組
 - 滋賀県と県内の看護系3大学が連携し、令和6年度入学者選抜から、『看護地域枠制度』を導入
- 20 編集後記



びわこ学園医療福祉センター草津

逸見看護部長より施設の概要について説明を受けました。その後、2班に分かれて、施設見学を行っていただきました。



個人に寄り添い尊重する姿勢を大切にされていることを肌で感じることができました。参加学生感想より

実際のケアの様子を拝見でき、重症心身障害者のための施設という特殊な環境下で医療従事者が持つべき心構えや気遣いを学びました。参加学生感想より



琵琶湖病院

石田院長の挨拶のあと、稲垣思春期青年期治療部長から病院の概要について説明を受けました。また、高野看護部長より看護の現場のお話しをしていただきました。本学卒業生の榎本医師（専攻医）もご参加いただき、学生からの質問に熱心に答えていただきました。



精神科病棟という、講義では知ることのない世界を知ることができました。すぐに壊れてしまうカーテンや、強化ガラス窓などの特徴は興味深いものがありました。また、精神科の患者に対応するにおいて、医療者側が安心・健康であることの重要性を説いてくださったのが印象的でした。参加学生感想より



精神福祉士の仕事についても知ることができました。チーム医療がどの現場でも重要なので、他の職種について理解することもできるのも貴重な体験だと思います。参加学生感想より



勉強会 A講義室 (Z0) 17:15~17:45

講演：『地域における市立大津市民病院 感染症科診療部長

17:45~18:15



今回も地域の方々をはじめ沢山の医学びの多い研修となりました。あり

*滋賀医科大学11名(医学科9名、看護学科2名)と滋賀県立大学人間看護学部生2名が参加しました。
勉強会にはリモートで、里親やプチ里親の方々も参加していただきました。



市立大津市民病院

水野事務局長次から病院の概要や大津市の医療の在り方などについて説明いただきました。また病院の働き方改革についてもお話いただき、その後、ヘリポートや病院見学を行っていただきました。



感染症指定病院としてコロナ禍当初から多くの患者を担当した大津市民病院の内部からの視点が知れたことは、非常に刺激になった。
参加学生感想より

県庁所在地である大津市は、京都の県庁所在地である京都市と隣接しています。政令指定都市のすぐそばにある都市の中で、中核病院がどういった役割を果たしているのか、また、地域の人たちが求めているニーズを間接的に学ぶことができました。
参加学生感想より

～地域散策～

近江神宮

かるたの聖地と呼ばれている近江神宮を参拝しました。色鮮やかな楼門や、近代神社建築などの説明を聞きながら、普段と違った角度から見ることができ、お参りすることができました。



滋賀県出身でも意外と知らなかったことを学ぶことができました。
参加学生感想より

滋賀県内の名所を見て回ることができたのも貴重な経験になりました。今回の宿泊研修を通じて更に滋賀県についての見識を深められたと思います。
参加学生感想より



～昼食～



地域の名物が食べられて良かったです。
参加学生感想より



om配信)
講演・意見交換等

立大津市民病院の役割』

辻 桂嗣 氏

意見交換会



療関係者等の方々にご協力いただき、
ありがとうございました。

■ 訪問先の皆様からのメッセージ

■ 施設見学を受け入れて



びわこ学園医療福祉センター草津 看護部長 **逸見 聡子**

県内の新型コロナウイルス感染者も落ち着き始めた3月14日、総勢30名の方に見学に来ていただきました。当センターの見学は2018年に続き2回目です。



びわこ学園は昭和38年に日本で2番目に設立され、医療と福祉の2つの機能を兼ね備えた重症心身障害児者施設です。主に長期入所や短期入所、通所やグループホーム、訪問看護ステーションなどの事業を行っており、今年（令和5年）で創立60周年となります。

平成3年草津市に移転した当センターも32年目となりました。

現在は107名の長期入所の利用者が生活をされています。入所者の約6割が人工呼吸や胃瘻造設などの医療的ケアを必要としており、令和4年には障害者施設等入院基本料7対1を取得しました。また、県内には600名以上の重症心身障害児者が在宅で生活しており、短期入所用ベッド15床で在宅支援も行っています。利用者は以前からの重度高齢化に加え、最近はいさい子どもの重度重症児も増えており医療的ケアが多様化、複雑化しています。職員も260名ほどが在籍し、十分に言葉でのコミュニケーションがとれない利用者に対し、日々の小さくも様々な観察を積み重ね、多職種連携をしながら利用者の支援にあたっています。



今回の見学も2班に分かれて、病棟を見学していただきました。

朝早い時間だったため、朝のケア（おむつ交換や更衣）でカーテンが閉まっている部屋もあったのですが、各病棟の特徴を説明させていただきながら利用者さんの様子や職員の動きなどを見学していただきました。



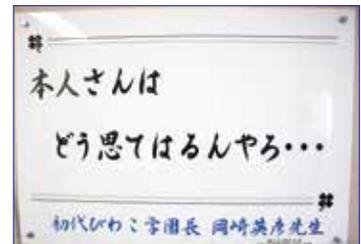
見学後は質疑応答の時間を設け、「面会はどのようにしているのか」「急変時はどのような対応をしているのか」など様々な質問が飛び交い、学生さんの関心の高さがうかがえました。

この3年間、新型コロナウイルス感染で面会や外出が制限され、職員以外と交流がめっきり減った利用者さんにとっては、若い学生さんや大学の先生方とお会いできることは久しぶりで、そしてとても新鮮な時間でした。ありがとうございました。

びわこ学園の棟内には「本人さんはどう思てはるんやろ…」というパネルが掲示されています。これは、初代園長岡崎英彦氏が残した言葉です。

私たちは様々な職種と連携するなか利用者主体を忘れず日々関わっています。

これからの医療を担う皆様もこれから色んな知識や技術を学び、そして様々な人たちと出会っていきます。学ぶことは学問だけでなく人を診る（看る）職業として、相手を思いやる人であってほしいと思っています。頑張ってください。応援しています。



びわこ学園医療福祉センター草津について



びわこ学園医療福祉センター草津

センター草津で、目指していることは、どんなに障害が重くても、一人ひとりの持っている力を引き出し、充実感や生きる喜びを感じる人生を、医療を通じて実現していくことです。

入所・入院医療

主に重症心身障害の方の医療の支えのある長期入所入院、地域セーフティネットとしてのショートステイ、3ヶ月までの有目的入院・入所、一般入院など、多様な入院・入所サービスを用意して、利用者の地域生活を支えています。

対象は乳幼児から大人までで、人工呼吸器ケアなど呼吸、循環の管理、摂食嚥下、消化吸収の管理、排泄、筋緊張、てんかん治療などを通じて苦痛を軽減し快の状態を作り出すことで、充実した生活を目指します。治す医療というより、生活を支える医療です。栄養サポートチーム、呼吸サポートチーム、姿勢保持チーム、感染防止チームなど多職種でチームをつくって専門性を発揮しながら支援しています。

外来診療

脳性麻痺のリハビリでは、日本で初めて重力を免荷するspiderという方法を取り入れ、麻痺のある方も無理なく楽しく身体を動かしていけるリハビリを開始しました。また、滋賀県立大学工学部とタイアップし、電動スイッチによる移動支援装置を開発し、障害があっても自ら操作して、意欲や能動性が高まることを目指したりハビリを実施しています。また、知的障害や発達障害に対しては、リハビリや心理スタッフと連携し、ソーシャルスキルトレーニング、ペアレントトレーニング、感覚訓練や学校でのスキル獲得の作業療法などを実施しています。障害のある方の歯科外来も開設しています。

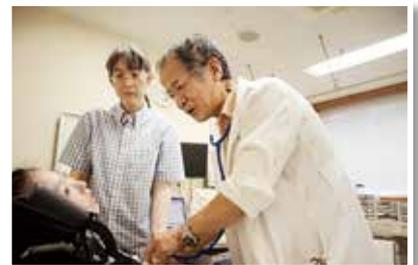


口分田政夫施設長

地域支援

療育教室、通所施設での医療相談、訪問歯科、訪問リハビリも実施しています。滋賀県から小児在宅医療体制整備事業の委託を受け、県内の小児在宅医療のネットワークづくりや研修も最近始めました。小児科主体の医療陣ですが、障害医療は専門科を統合した総合障害内科としての力が必要で、どの専門家からもアプローチできます。臨床研究も活発に行い、当施設からの臨床研究で2名が学位を授与されています。当センターの女性医師は、「このセンターでは、病棟では全身管理などの高度医療、外来では障害児のこころのケアなど、心身両面への幅の広い医療が実施でき、また対象年齢も乳児期の発達医療から高齢者の看取りまでも経験できて、とても魅力的でやりがいがある職場と感じます。また、育児中の女性にも働きやすい職場です。」と語ってくれています。

滋賀医大学生の早期体験学習や小児科専門医研修プログラムなどに参加し、若い医師育成にも協力させていただきたいと思っています。(写真撮影 國森康弘氏)



医療法人明和会琵琶湖病院から

医療法人明和会 琵琶湖病院 理事長・院長
(滋賀医科大学2期生)

石田 展弥



滋賀医科大学、滋賀県立大学の皆さん、3月14日に琵琶湖病院を見学していただきありがとうございました。見学の当日は、短い時間でしたが、琵琶湖病院の精神科治療の方針や、現況について15分間説明し残りの45分間を質疑応答としました。非常に多数の質問が出て、その内容も質問のための質問でなく、実地臨床に沿うものであり、皆さんの関心の高さを垣間見ることができました。当日、説明した内容を少しここで紹介します。当院は



1952年に前理事長であった加藤明先生が開設されました。現在、精神科急性期治療病棟（58床）、認知症疾患治療病棟（46床）、精神科療養病棟（50床）、内科療養病棟（24床）が稼働しており、児童思春期病棟を開設準備中です。専門外来として、認知症外来、児童思春期外来、聴覚障害者外来、睡眠外来を開いています。また、外来・病棟の作業療法、重度認知症デイケアを院内で行っています。法人の施設としては、びわこクリニック（堅田）、精神科大規模デイケア（びわこクリニック内）、当院の医

局チームには、私を含め常勤医が8名います。その中には滋賀医大出身の先生だけでなく、他大学出身の先生もおられます。滋賀医大出身の先生は、副院長の松田桜子先生（13期）、村上純一診療部長（21期）、稲垣貴彦児童思春期診療部長（24期）、榎本啓希先生（40期）です。循環器内科の蔦本慶尚先生（2期）にも2023年4月から加わっていただいています。このほかにも、須藤智志先生、木瀬達也先生（精神科）、吉田翔希子先生（内科）の非常勤の先生にもご診療いただいています。



当院は滋賀医科大学精神医学講座の研修協力機関であり、子どもこころ専門研修基幹病院、でもあります。取得できる資格は、精神保健指定医、精神科専門医、精神科指導医、子どもこころ専門医、老年精神学会専門医です。またちょっと変わった取り組みとして、精神科e-guideという精神科診断における診断基準の利用と精神科薬物療法における適切な使用を研究する全国的なプロジェクトに参加しており、標準的かつ合理的な精神科診断や薬物療法を各先生たちが行っていけるように



しています。治療の取り組みとしては、患者さんとともに考えてゆくオープンダイアログという方法を学ぶこともできます。



この稿を終えるにあたり、私自身の目標でもあり、皆さんにも期待したいことを書きます。物事の本質を見る目、他者を柔らかく見る目、全体を俯瞰する目を持って活動してゆくことです。この三つの均衡を崩さないようにかつ、深めてゆくことは至難のわざで、私はいまだに深められてもいませんが、日々少しでも深められるようにと考え患者さんの診察をしています。滋賀県での皆さんの活躍を期待しています。

医療法人明和会 琵琶湖病院について

基本理念

1. 精神的自由のための、
適切で意味のある精神的医療の提供

2. 精神的医療による地域貢献

行動指針

相互の尊厳を大切にする
変化への勇気をもつ

状況を見極める叡智をもつ
不動の晴朗な心をもつ

治療方針

1. 精神的自由のための、適切で意味のある精神科医療の提供

統合失調症や気分障害等の精神疾患、認知症等について専門の病棟を有しており、一人ひとりの患者様に対する高い専門治療と治療プログラムを実施しています。滋賀医科大学、京都大学の研修協力病院として研修医を受け入れたり、大阪医科大学付属病院精神神経科との密な連携によって、治療抵抗性統合失調症や気分障害の治療にも対応しています。

2. 心理教育、精神療法、当事者活動に取り組みます

患者様が自分の病気を知り自己管理ができるように、疾病に対する心理的アプローチを行う心理教育をはじめ、精神療法や認知行動療法に力を入れています。また、地域において、精神保健福祉協会等と協力し、当事者活動にも取り組んでいます。

病院概要

開設者：医療法人明和会 理事長 石田展弥 院長：石田展弥

所在地：〒520-0113 滋賀県大津市坂本1丁目8番5号

連絡先：TEL:077-578-2023 FAX:077-579-5487 mail:info@biwako.or.jp

開設日：昭和39年9月1日 創立：昭和27年10月1日（診療所開設）

診療科：精神科、内科

許可病床数：297床

関連機関指定等：

- ・びわこクリニック、グループホーム みなも、訪問看護ステーション あゆみ
- ・精神保健福祉法に基づく指定病院
- ・精神保健福祉法に基づく応急入院指定病院
- ・医療観察法に基づく指定通院医療機関
- ・滋賀県精神科救急医療システムにおける精神科救急医療施設
- ・認知症疾患医療センター
- ・協力型臨床研修病院 滋賀医科大学 公立高島総合病院 京都大学付属病院
- ・日本精神神経学会専門医研修施設



「勉強会(講演・意見交換会)に参加して」

研修(講演・意見交換会)に参加して

市立大津市民病院 感染症科 診療部長 辻 桂嗣



・講演『地域における市立大津市民病院の役割』概要

時に映画のワンシーンにも登場する我々市立大津市民病院は、二次救急施設として大津市の急性期医療の一角を担うと共に、滋賀県下唯一の第一種感染症指定病院として感染症診療にも尽力して参りました。2020年の流行当初から新型コロナウイルス感染症、COVID-19の診療に関しても滋賀県南部の拠点として病院を挙げて取り組んでおり、軽症例の診断から最重症例の集中治療までを担ってきており、その一端をご紹介します。

当院のCOVID-19診療の特徴は、①内科系外科系問わず、各科多数の医師が協力分担して発熱外来を運用するなど各科横断的に協力して診療体制を構築している点が挙げられます。これにより他の病院がCOVID-19診療に消極的な時期から既に病院全体が協力し円滑に診療を行う事ができました。

2020年12月21日以降は陰圧ユニットを完備した新設の感染症ER棟で発熱外来の診療を、入院病棟はいずれも陰圧室のある9B病棟、3B病棟及びICUで診療を行っています。

日本国内及び滋賀県の新型コロナウイルス陽性患者数の推移を時系列で振り返りますと、Go toキャンペーンや東京五輪などイベントごとに流行が拡大してきたかのように、ゲノム解析の結果と合わせて振り返ると、実はアルファ株の出現と共に第4波が、デルタ株の出現と共に第5波が、オミクロン株(BA1株)の出現と共に第6波が、BA5株の出現と共に第7波が形成されているのが理解できます。2023年3月現在主たる流行株がXBB株系統へ置きかわりが進む事が予想されており今後も注意が必要です。

・研修の感想

オンラインでの講演でしたが、学生の皆さんから多数のご質問を頂き、滋賀の地域医療に対する関心の高さ、モチベーションの高さを感じ、頼もしく心強く思いました。将来の医療人たる皆さんには、ワークライフバランスの問題を解決しつつ、医療の質を維持して滋賀を医療で支えて頂きたいと思えます。



ご講演(オンライン)の様子



感染症ER 外部廊下(患者と医療従事者の動線を完全に分離)



感染症ER おくすりお渡し口



屋上ヘリポートから望む琵琶湖



市立大津市民病院 外観

地方独立行政法人 市立大津市民病院について

地域とともに、地域のために、よりよい医療を

市立大津市民病院は、明治32年に開設されて以来、長年にわたり市民の安心・安全を支える病院として地域医療の中核を担ってきました。平成15年には地域に必要な医療の確保と充実を図るため地域医療支援病院に、平成26年には放射線治療棟を増築し、滋賀県地域がん診療連携支援病院としてがん診療の充実に取り組んできました。

平成29年には、経営の自由度を高め、医療情勢の変化に対応するため、「地方独立行政法人市立大津市民病院」として新たな船出をいたしました。また、当院は大津市消防の救急搬送件数の20%強を受け入れていることから、平成30年にはICUを増床、リニューアルし、関西初となるトータルリフトベッドを導入するなど救急需要の増大や患者の高齢化に伴う重症化に対応しています。

令和2年からの新型コロナウイルス感染症に対しては、「感染症ER」を設置し、滋賀県唯一の第一感染症指定医療機関としてコロナ患者の受け入れを断ることなく対応してきました。

一方で、当院では経営に対する意見の食い違いに端を発して、令和3年度末から令和4年度にかけて医師の大量退職、また、これに伴う理事長、院長の退任という問題も発生し、ニュースでも取り沙汰されましたが、昨年4月に日野院長、10月には河内理事長が就任したこと、退職医師に代わる医師が順次着任したことにより、落ち着きを取り戻しております。

また、新たに着任された医師にはロボット手術の指導医も複数名いることから、高度鏡視下手術トレーニングセンターの体制も充実しました。医療機器においては、ロボット手術が可能な医師の充実が図れたことからdaVinci Xiを導入しました。また最新鋭の循環器アンギオ装置（シーメンス社製 Artis one）を導入し、あらゆるカテーテル治療を行っています。

これからも大津保健医療圏における中核的な病院として安全安心で質の高い医療を提供するとともに、市民や患者の皆様信頼される病院として努力してまいります。

病院理念 「信頼の絆でつながる、市民とともに歩む健康・医療拠点」

基本方針

「市民の命を守る病院」

- ・市民に寄り添い、健康をサポートできる病院
- ・24時間365日、常に安心して受診できる病院
- ・広域感染症発生時や大規模災害時などに対応できる病院

「地域医療を守る病院」

- ・患者とともにあり、患者を治し支える病院
- ・質の高い医療を提供し、地域のニーズに応える病院
- ・予防から緩和までがん強い病院



病院の概要

開設者	地方独立行政法人市立大津市民病院
理事長	河内 明宏
院長	日野 明彦
所在地	大津市本宮二丁目9番9号（〒520-0804）
施設の概要	本館 地上9階、地下1階、屋上ヘリポート（免震構造） 別館 地上5階、地下1階 感染症ER棟 地上1階 放射線治療棟 地上2階 駐車場 第1（211台）、第2（307台） 院内保育所
病床数	401床 〈内訳〉一般病床393床、感染症病床8床

アクセス

お車の場合
名神高速道路大津インターより約5分

バスの場合
JR大津駅より約10分（国道経由）
「大津市民病院前」下車

徒歩の場合
JR膳所駅、京阪膳所駅より約10分



地方独立行政法人

市立大津市民病院

病院所在地
お問い合わせ
HP

〒520-0804 滋賀県大津市本宮二丁目9番9号

Tel. 077-522-4607(代表)

<https://och.or.jp>

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 医学科第1学年

初めて宿泊研修に参加させてもらいました。私は元々精神科に興味があり、精神科単科病院である琵琶湖病院が行き先に入っていたため、今回参加を決めました。琵琶湖病院では、先生たちに直接滋賀の精神科医療についてのお話が聞けてとても面白かったです。

また、授業などでしか知らなかったびわこ学園に行き、直接利用者さんに会うことができたことはとても有意義な時間でした。

医療の現場を直接見てみることは、授業や資料では全くできないことでも面白かったです。また参加したいです。

滋賀医科大学 医学科第1学年

今回の宿泊研修では、3施設の訪問と勉強会という非常に充実した内容であった。施設訪問では、それぞれの施設で大きな学びを得ることができた。びわこ学園では、個別性の尊重と利用者の変化への対応がみられた。具体的には、利用者一人一人に合わせて衣食住が整えられており、利用者の傾向の変化から施設の増設や調整を行っていた。琵琶湖病院では、精神科病院ならではの特徴を学ぶことができた。特に精神疾患を抱えた患者さんに対して、自傷行為・自殺を防ぐために様々な工夫をしているのだと感じた。大津市民病院では、保険医療圏や地域でその病院がどのような役割を持つのかを考えるきっかけとなった。大津保健医療圏における大津市民病院の役割を学ぶことができただけでなく、大津保健医療圏の特徴を踏まえてそれぞれの病院が役割を果たさなければならないのだと感じた。勉強会では、コロナ禍における大津市民病院の役割について学ぶことができた。私たちはコロナ禍の中にはいたものの、医療の立場からコロナ禍を知っていたわけではなかった。感染症指定病院としてコロナ禍当初から多くの患者を担当した大津市民病院の内部からの視点が知れたことは、非常に刺激になった。今回の研修でも様々なことを学べたので、次回の研修もぜひ参加したい。

滋賀医科大学 医学科第1学年

夏の研修では実際に研修先を訪れることなく、オンライン研修となってしまうので、今回はびわこ学園、琵琶湖病院、大津市民病院の3つの病院を訪れ、様々なことを学ばせて頂きました。また、午後の講義ではコロナの感染症対策を先頭で行ってきた大津市民病院のことやこれからのコロナのことを教えていただけ良かったです。

滋賀医科大学 医学科第2学年

今回の宿泊研修で、初めて実際に現地に足を運んでの見学が叶いました。それぞれの病院・施設が滋賀県の医療・福祉において果たしている役割や、そこで働く皆様の考え、滋賀県の医療・福祉の将来への展望を、現地を見学することで五感を通して感じることができ、とても充実感のある研修でした。

病院・施設見学以外にも、近江神宮などの滋賀県内の名所を見て回ることもできたのも貴重な経験になりました。今回の宿泊研修を通じて更に滋賀県についての見識を深められたと思います。今後もこの経験を活かして研鑽を積んでいきたいです。

滋賀医科大学 医学科第2学年

はじめに、コロナによる制限が続く中、今回の里親研修の機会を設けてくださった皆さま、本当にありがとうございました。滋賀に来て2年が経ちました。2年生になって医学の基本的な知識は増えたが、医療現場に対するイメージは漠然とした部分が多いです。

昨年の夏休み、湖北の診療所へ見学に行った際に、先生に「その場で何を学びたいか、目標を立てて過ごしなさい」という言葉をいただきました。今回の自分の中の目標は、湖南地域を通じて、医療の体制を学ぶことでした。

訪れた滋賀の県庁所在地である大津市は、京都の県庁所在地である京都市と隣接しています。政令指定都市のすぐそばにある都市の中で、中核病院がどういった役割を果たしているのか、また、地域の人たちが求めているニーズを間接的に学ぶことができました。

学生生活もあと4年になりましたが、現地へ赴いて、滋賀をもっと学んでいきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 医学科第3学年

宿泊研修に参加させていただくのはこれで私は2回目でしたが、以前とはまた別方面から、滋賀県の地域医療を学ばせていただきました。

私が本研修の中で印象に残っているのは、びわこ学園の見学です。以前医学概論の授業でびわこ学園についてのお話を聞いたことがありましたが、建物や働いている職員の皆さんをその場で実際に見ることで、個人に寄り添い尊重する姿勢を大切にされていることを肌で感じることができました。どの施設でも、加えて勉強会でも、丁寧に質問などにもご対応頂けたので質問・発言しやすい雰囲気も相まって、有意義な機会となりました。ありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科第3学年

びわこ学園では、若い方からご高齢の方まで、利用者さん方の生活を目で見たことが勉強になりました。1階建てで平たい木目調の明るい病棟は、学校のように滋賀県の優れた受け入れ体制を垣間見ることができました。琵琶湖病院では、精神科病棟という、講義では知ることのない世界を知ることができました。すぐに壊れてしまうカーテンや、強化ガラス窓などの特徴は興味深いものでありました。また、精神科の患者に対応するにおいて、医療者側が安心・健康であることの重要性を説いてくださったのが印象的で、今後この言葉を大切にしようと感じました。

大津市民病院では、特に大学でZoomにて講演された辻先生のお話が勉強になりました。新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行を受けて、院内クラスターが懸念されるといったお話や、これまでのウイルスの変異株と流行の関連など、コロナウイルス感染症の概観をご教示いただき、非常に勉強になりました。

滋賀医科大学 医学科第3学年

今回の研修に参加して本当に良かったと思うことは、それぞれに地域への貢献の仕方が異なる地域の医療現場を実際に見学し働く方々にお話を聞いたことです。特に医師以外の医療職の方々からもお話を聞いたことで、普段患者さんとどのような関わり方をしておられるのか知ることができ、患者さんの病気についてだけでなく、福祉や社会との関わりについて考える機会が得られたのが非常に有意義でした。

参加させていただき誠にありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科第3学年

今回は3つの施設を見学させていただき、大津市の病院の雰囲気を知ることができました。また、近江神宮などでは滋賀県出身でも意外と知らなかったことを学ぶことができました。びわこ学園では施設内をまわって見学させていただいて実際にどのように利用者さんと接しておられるかなども拝見し、接し方など参考になることが多くありました。病院ごとの特色や取り組まれていることなど、聞きたかったことにも丁寧に答えていただいて大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

滋賀医科大学 看護学科第1学年

前回の研修では病院の機能や地域における役割について学ぶことができ、今回の研修では主に患者さんの生活を知ることができました。それぞれの病院には患者さんに合わせた特徴的な施設があり、現地に行ってみなければわからない発見がありました。また、患者さんとの関わり方に工夫が見られ、スタッフの方々が熱意をもって患者さんと向き合っていることがよくわかりました。来年度の病院実習ではぜひこの経験を活かしたいと思います。里親研修に関わってくださった先生方、ありがとうございました。



宿泊研修に参加して (学生の声)

滋賀県立大学 人間看護学部 2 回生

大学に入学してから、コロナ禍の影響で、実際に病院を訪問したり、職員の方のお話を聞いたりする機会がありませんでした。今回の研修では、私が興味を持っていた地域の医療体制について詳しく知ることができ、とても貴重な経験になりました。また、質問の時間を通して、自分にはなかった新たな視点に触れ、看護を学ぶことへのモチベーションが高まりました。3 回生の後期からは実習が始まります。課題に追われる日々になると思いますが、私の看護が未来の地域医療を支えることにつながるのだという意識も持ちながら頑張っていきたいと思います。

滋賀医科大学 看護学科第 1 学年

今回の研修を通して、ホームページだけでは分からない個々の施設の雰囲気や働き方について知ることができました。特にびわこ学園では実際のケアの様子を拝見でき、重症心身障害者のための施設という特殊な環境下で医療従事者が持つべき心構えや気遣いを学びました。また、現場を見ることはできなくても、質疑応答の時間をたくさんとっていただけのおかげで、学校では学べないより具体的なお話を聞くことができました。私は将来に働く場所を考えるための情報が欲しいと思い、この研修に参加しました。そのため、その情報を得ることができてとても良かったです。

滋賀県立大学 人間看護学部 3 回生

初めて研修に参加させていただきましたが、様々な施設の中まで見させていただき、学びになりました。びわこ学園では、医療と福祉をかねそなえるという、障害のある人たちが安心して暮らせるまちが実現していました。この施設で働くスタッフの、障害のある人の『つもり』を遮ったりしない援助についても知ることができました。このような施設が滋賀県の南に集中しているということで、北にもこのような施設が増えてほしいと感じました。しかし、北にはまた別の医療の役割があると思うので、また研修に参加して滋賀県の様々な地域の医療や福祉を学んで今後の自分の役割について考えたいと思います。また、琵琶湖病院でも、精神領域のことが知ることができました。隔離拘束が一切ないということは、隔離拘束を行わないためにカーテンを天井から吊るしたり強化ガラスにしたりと様々な工夫や、スタッフの患者さんのことを一番に考えた援助があるからだと思います。私は看護学部ですが、精神福祉士の仕事についても知ることができました。チーム医療がどの現場でも重要なので、他の職種について理解することもできるのも貴重な体験だと思います。また、大津市民病院では、ヘリポートを見させていただき、自分が考えていた領域以外にも興味を持ちました。また、コロナ感染症に対する市立大津市民病院の役割やこれからの対応などを教えていただき、多くの質問に答えていただいたので、学びが深まりました。今回は様々な施設で働いている現場の方の貴重なお話を聞くことができ、これからの自分の看護や医療のことについて考えることができました。ありがとうございました。



～ 里親学生支援室からのお願い ～

将来、滋賀県内で働くことに興味を持っている学生(里子)に対して、県下で活躍する一先輩として、学生生活や将来の進路などの相談にのるアドバイザー(里親)を募集しています。

本事業に賛同していただける方は、里親学生支援室までメールで職業・氏名・「里親希望」と明記の上、お申し出いただきますようお願い申し上げます。(事業の詳細はHPをご覧ください。)

【お問い合わせ先】 滋賀医科大学里親学生支援室
 Tel: 077-548-2072 E-mail: satooya@belle.shiga-med.ac.jp
 URL: <https://www.shiga-med.ac.jp/~satooya/>



湖国とともに 世界に羽ばたく



医療のあゆみ半世紀、さらなる飛躍へ

▼記念事業①中庭リニューアル



さざなみガーデン

▼記念事業②学生食堂リニューアル



SUMSキッチン

▼記念事業③同窓会スペース新設



湖医会ラウンジ

滋賀医科大学は2024年に 開学50周年を迎えます

この記念すべき節目にあたり、滋賀医大版「三方よし」の実現に向け、様々な記念事業を展開しています。



▲記念事業④附属病院内緑化の充実



「三方よし」未来募金に ご協力お願い致します

開学50周年記念事業の趣旨にご賛同いただき、格別のご理解を賜り、ご支援・ご協力をお願いできれば幸甚に存じます。



クレジットカード等での
ご寄附も可能です

◀お申込み方法など詳細はこちらをご覧ください

開学50周年記念 市民公開講座参加者募集



滋賀県内4箇所・計4回開催です。
たくさんのご参加お待ちしております。

◀詳細はこちらをご覧ください



50年の
“ありがとう”
の気持ちを込めて
あなたの街に
お届けします

滋賀県では、将来県内で地域医療に貢献する意思を持った医学生に対して、以下の取組を実施しています



◆ 医学生向け貸付金



資金名	A 滋賀県医師養成奨学金	B 滋賀県医学生修学資金
募集人員	11名	6名
貸与対象者	滋賀医科大学医学部入学者	全国の医学部3年生 (滋賀医大生も可)
募集時期	滋賀医科大学医学部入学時	医学部3年生在学時
貸与期間/金額	1年生～6年生(6年間) 年額180万円 (総額1,080万円)	3年生～6年生(4年間) 年額180万円 (総額720万円)
返還免除条件	<ul style="list-style-type: none"> 県内医療機関に9年間勤務すること(6年目以降の4年間は知事指定医療機関で勤務) キャリア形成プログラムに参加すること(次ページ参照) 	<ul style="list-style-type: none"> 県内医療機関に6年間勤務すること(5年目以降の2年間は知事指定医療機関で勤務) キャリア形成プログラムに参加すること(次ページ参照)
県の指定病院	県保健医療計画上一定の役割のある県内病院から指定 ※原則、医師の不足する地域の医療機関での勤務を指定	

★上記の貸付金制度は、県内医療機関への就業義務の履行を一時中断し、大学院への進学や国内外の医療に関する研修の参加、県外勤務を行うことも可能です。

※一時中断の期間は上限があります。

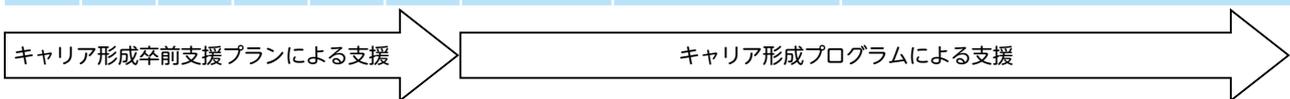
A 医師養成奨学金 最大8年間(大学院進学 最大4年 + その他の事由 最大4年)

B 医学生修学資金 最大7年間(大学院進学 最大4年 + その他の事由 最大3年)

※返還事由に該当したときは、貸与した資金を利息とともに一括で返還いただきます。

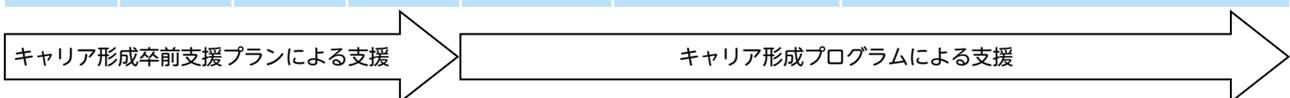
(A 医師養成奨学金)

在学中						就業義務期間中									
1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
180万円	180万円	180万円	180万円	180万円	180万円	臨床研修	県内病院での勤務				県内医療機関のうち、知事が指定する病院で勤務 ※原則、医師の不足する地域の医療機関での勤務				



(B 医学生修学資金)

在学中				就業義務期間中						
3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
180万円	180万円	180万円	180万円	臨床研修	県内病院での勤務			県内医療機関のうち、知事が指定する病院で勤務 ※原則、医師の不足する地域の医療機関での勤務		



◆ キャリア形成プログラム（卒後）



【キャリア形成プログラムとは】

以下の①、②の両立を図る制度です。

- ①対象医師の**キャリア形成を支援**し、滋賀県の**地域医療を支える人材を育成**すること。
- ②医師が不足する医療機関への医師を派遣することにより、**県内の医師偏在を解消**すること。

滋賀県医師キャリアサポートセンターが対象医師と面談し、県内で希望するキャリア形成ができるよう支援します。

【参加対象者】

- ・地域枠（※）で入学し、卒業した医師（＝Aの被貸与者）
- ・プログラム適用を希望する医師等（Bの被貸与者を含む）

※地域枠とは、一般の入学者とは別枠で滋賀医科大学に入学する者で、以下の従事要件が課せられる入学枠です。

- ・卒後9年間、県内で従事する。
- ・キャリア形成プログラムに参加する。

◆ キャリア形成卒前支援プラン（在学中）



【キャリア形成卒前支援プランとは】

地域医療へ貢献する意思を持つ医学生に対し、地域医療や将来の職業選択に対する意識の向上を図り、**地域医療に貢献するキャリアを描けるよう支援**するプランです。

【参加対象者】

- ・地域枠で入学した学生（＝Aの被貸与者）
- ・キャリア形成プログラムの適用に同意した学生等（Bの被貸与者を含む）

【プラン内容（例）】

- ・県内で活躍する先輩医師等を講師として招き、キャリア形成や地域医療への貢献、滋賀県で働く魅力等について話を聞く機会を設ける。
- ・一泊二日の宿泊研修を行い、地域の医療機関に勤務する医師や看護師、地元住民の方と直接交流する機会を設ける。

◆ お問い合わせ先

滋賀県 健康医療福祉部 医療政策課 医療人材確保係

TEL : 077-528-3613

E-mail : ef00070@pref.shiga.lg.jp

詳しくはこちら→





滋賀県と県内の看護系3大学が連携し、令和6年度入学者選抜から、『看護地域枠制度』を導入します

◆ 看護地域枠制度

滋賀県の地域医療を担う看護職を養成することを目的に、滋賀県と県内に所在する看護系学科を持つ3大学（※）が連携し、令和6年度入学者選抜から『看護地域枠制度』を導入します。

各大学の入試において看護地域枠で選抜され入学した者には、滋賀県から奨学金を貸与します。在学中には、各大学においてキャリア形成支援を行います。

1. 奨学金について

奨学金名	滋賀県地域医療を担う看護職員養成奨学金
募集人員	各大学10名以内
貸与対象者	看護地域枠で選抜され入学し、将来滋賀県内で看護職員の業務に従事しようとする者
選抜方法	各大学の募集要項を参照
貸与期間／金額	1年生～4年生（4年間） 年額60万円（総額240万円）
返還免除条件	<ul style="list-style-type: none"> 大学を卒業後、1年6月以内に免許を取得すること 免許取得後、直ちに県内において引き続き6年間看護職員の業務に従事すること
（※）対象大学（R5.6月時点）	<ul style="list-style-type: none"> 滋賀医科大学医学部看護学科 滋賀県立大学人間看護学部人間看護学科 聖泉大学看護学部看護学科

2. キャリア形成支援について

各大学では在学中から、各大学の強みを活かした特色ある取組により、滋賀県の地域医療に貢献するキャリアを描けるよう、しっかりサポートします。



◆ お問い合わせ先

《制度に関すること》 滋賀県 健康医療福祉部 医療政策課 医療人材確保係
TEL：077-528-3613 E-mail：ef0001@pref.shiga.lg.jp

《入試に関すること》 滋賀医科大学（入試課入学試験係） TEL：077-548-2071
滋賀県立大学（教務課入試室） TEL：0749-28-8217
聖泉大学（アドミッション室） TEL：0749-43-7511

詳しくはこちら↓



◆ その他の取組

滋賀県では他にも看護職員修学資金および滋賀県立看護師等養成所授業料資金も貸与しています。

看護職員修学資金→  滋賀県立看護師等養成所授業料資金→ 

滋賀県での看護職の魅力も発信中です。ぜひご覧ください。

しがでナースる！YouTubeチャンネル→  ガイドブック→ 



滋賀県医師キャリアサポートセンター

(滋賀県地域医療支援センター) 当センターは滋賀県健康医療福祉部医療政策課と滋賀医科大学医学部附属病院に共同で設置し、滋賀医科大学医学部附属病院には専任医師を配置して医師のキャリアサポートを行っています。

2023年度
第1回

地域に根差す医師として。(在宅医療の実際)

講師：木築 野百合先生 (きづきクリニック)

日時：令和5年6月8日(木) 16:30～

滋賀県で在宅医療を含め、地域に根差した医療を展開しておられる木築先生に、かかりつけ医としての患者さんとの関わり方、先生の今までの歩みや医師会の働きについて、とても楽しくご講演いただきました。

講演後は、参加者全員からの質問に先生ご自身の経験を踏まえお答えいただき、有意義な懇談会となりました。

【学生の感想】

- ・精力的に活動されている先生から地域医療のあり方についてお話を聴けて非常にためになりました。
- ・実際のお話を軸に医療についてお話しいただいたので、現場のイメージがしやすく、興味深く話を聴くことができました。
- ・地域医療に興味がありながらも、在宅医療がどのようなものなのかを理解できていなかったため、実際の症例も挙げながら説明していただき、分かりやすく、勉強になりました。



○滋賀県医師キャリアサポートセンターのホームページをリニューアルしました



新URL <https://shiga-ishicsc.jp/>
是非お気に入りにご登録ください。

QRコード



- ・今回のリニューアルでは、ユーザーの皆様がより見やすく、親しみやすくご利用できるホームページを目指し、デザインやページ構成を見直し、新コンテンツの追加も実施しました。
- ・また、スマートフォンやタブレットでの表示にも対応し、各デバイスから閲覧できるようになりました。
- ・利用者が目的の情報にたどりつきやすくなるように、以下のとおり目的者ごとにサイトを構成（メニュー表示）しました。

- 1) 研修医、医師の皆さまへ
- 2) 医学生の皆さまへ
- 3) 中高生の皆さまへ
- 4) 医療機関の皆さまへ
- 5) 修学資金等貸与の皆さまへ

◆◆ 懇談会開催予定 ◆◆

第2回 令和5年11月～12月頃予定

場所：滋賀医科大学内会議室等（未定）

講師：辻 喜久先生

(総合診療学講座 特任教授)

お問い合わせ先

滋賀県医師キャリアサポートセンター

滋賀医科大学クオリティマネジメント課内(附属病院 4階)

住所：〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL：077-548-2826

E-mail：ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp

相談窓口も設置しています。
詳しくはキャリアサポHPをご覧ください。

もっと詳しく▶

滋賀県医師キャリアサポートセンター <https://shiga-ishicsc.jp/>



医師会とわたし

滋賀県医師会 理事 **木築 野百合**
(きづきクリニック 院長)



私は滋賀医大5期生の木築です。兵庫県生まれですが、滋賀医大に入学したことをきっかけに、今は滋賀県民となっております。



「きづきクリニック」発熱外来がNHKのニュースに出たときの写真

私は小学生の低学年のときから医師になることにあこがれておりました。といいますのも、父が医師で、保健所長の職に就いており、そのときはもう、他界しておりましたが、母方の祖父が歯科医、父方の祖父が獣医という医療系の系図をひいておりましたし、(どちらの祖母もどうやら、看護師や助産師の資格をもっていたらしい。)母曰く、「芸術の才能も、商売の才能(商才)も持ち合わせてない家系なのだから、資格に裏打ちされた仕事に就くのがいいよ。」と、医師になるのがいいのだと誘導されていました。それとそういえば、叔母やいとこも学校の先生だったり、公務員だったり、が多い家系でした。

父がよくぺらぺらとめくって見ていた雑誌に「医師会雑誌」というのがあり、月に2回自宅に配達されるのですが、それが、ああ、父は医師なのだ、と思わせてくれていました。保健所長は地方公務員で、朝出かけて夕方帰ってくるサラリーマンのため、病院勤めや、開業されている先生方とは、仕事ぶりが違っていたので、父が医師であることの確認がとても取りにくい状況だったのです。

私は、滋賀医大を卒業して、滋賀医大の研修医として、勤務するようになって、すぐさま、滋賀医大医師会に入会しました。当時は入会金も会費も必要でしたが、あこがれの医師会に入会したかったし、医師は医師会に入るのが当たり前だと思っていました。

最近の若者は、医師会は何をしてくれるのかわからない、入会するメリットがわからない、との理由から、入会をされないようです。これは、滋賀県の若者だけではなく、全国的にその傾向はありそうです。そのため、日本医師会は入会者が少なく、危機的な状況にあるようです。とりわけ、滋賀県は重点的に入会促進をすすめるように言われている地区になります。

先日の滋賀県医師キャリアサポートセンターでの講演のときにもお伝えしましたが、現在、日本という国は、医師の取り分となるべき、医療費を抑え、医師の自由な専門分野選択に制限を設け、進みたい科を選ぶときにも、勤めたい地域を選ぶときにも、条件を付加して、国の思うように医師をコントロールしようとしているようです。(ちよつと大げさですけどそうなのです。)その国の作戦に上手にのっかっていけば、たぶん大丈夫だろうと、皆さんは思っているかもしれませんが、病院が倒産し、診療所が売却され、医師免許をもっているというだけでは、十分な生活ができなくなる時代がくるかもしれない危機感を感じとっている、医師会の先生方が、皆さん、若者が、将来困らないで生活できるようにするために、国と意見を戦わせながら、医師の身分と医師の権利を守ろうとしてくれているのです。(それが医師会の仕事のひとつです。)



#のゆりためき #信楽焼

医師会は研修医のときに入会する場合は入会金は無料です。C会員という立場になります。会費も5年間は無料にしてもらえるようです。(つまりは、デメリットのひとつであるお金がかかることは今はなく、医師会に所属することができるのです。)県医師会では、入会してくれた若い先生方と、未来にむけて、医師会がどうあるべきか、医師会が皆さんにどのようなお役に立てるかを考えて、いろいろ企画を出しています。

まずは、医師会なんでも相談窓口というのを開設いたしました。メールで相談をお寄



医師資格証 HPKIカードとして

滋賀県医師会なんでも相談窓口 開設
shiga.med.soudan@gmail.com



せいただければ、メールでお返事して、相談にのっていいというものです。(結婚や出産の前後のサポートについて、留学などのタイミングについて、科選択の助言、外車を買うとき安く買うための購入先、職場での人間関係の相談、などなど) とくに人間関係に関しては、実際一緒に勤めている先では、相談しにくいでしょうから、少し離れたところから、助言をするには、医師会の窓口がお役に立つのではないかと思います。

京都の医師会では、若い先生方と、勉強会をもって、臨床の診療についてのこつを勉強したりしているらしく、滋賀県でもできれば、若い先生方が、こんなことがしたいということの意見をお寄せいただければ、それを、実践できるように、サポートしていきたいと思っています。(こういうこともなんでも相談窓口にお寄せください。)

「産業医の講習をうけるために医師会に入りたい。」OKです。

「医師共同組合で、物品購入(特に外車がお得)したいから医師会に入りたい。」OKです。

「日本の未来の医療を支えるために、医師会に入りたい。」もちろん、OKです。

「ちょっと冷やかに、医師会員になってみてもいいかな?」それでもOKです。

まだちょっとよくわからないから、もう少し話が聞きたい。→なんでも相談窓口で質問をメールください。そして、少しわかってきたら医師会に入ってください。

父の医師会雑誌をめくる姿をみていた小学生の私は、まさか、その時の父の歳をこえて、医師会の役員をやっているとは思ってもみませんでした。滋賀県医師会の役員の先生方は、どなたも、皆さん、お忙しいのに、ご自身の医師としてのお仕事に加えて、医師会の役回りのことで、尽力されています。私も負けずに頑張って走り回っています。

現在の日本医師会長先生は、浜松医大出身の先生で、滋賀医大とは、姉妹校のような関係の大学であるため、私や、堀出理事のことを覚えてくださっていて、近畿の医師会連合の会などで、お会いすると、お声がけくださいます。いまこそ、日本医師会とも距離を縮めて、われわれのため、皆さん、若者のために、活動を活発にすべきときと考えます。

さて、医師会とは別に、滋賀医大には里親制度というのがあるのですが、滋賀県で、医学を学ぶ学生たちを応援するとてもよい制度です。(私、滋賀医療人育成協力機構の理事でもあります。)若者が、大人になっていくときに、助言や支援をするのが大人の役目だと思っています。一人で大人になることは、そんなに偉いことではありません。助言や支援を遠慮なく、求めてください。助言や支援を得て、みんなで立派になりましょう。求める先は里親、先輩、先生方、そして、医師会。皆さんを支え、励ましてくれる人たちがいることをおぼえておいてください。そして、育ててくれた滋賀県を支える大人になることができたら、と思います。

私はこういう風にお話することで、皆さんのお役に立てたらいいなと思っています。卒業して40年近く、少しは滋賀医大の、滋賀県のお役に立てているのではないかと思います。



外車の購入に医師であることが決め手になって安くなったと松下美季子先生

☆ 若手医師の皆様へ ☆

医師会なんでも相談窓口

滋賀県医師会(以下、県医師会)では、このたび、「医師会なんでも相談窓口」を開設いたしました。

先生方が生活し、就業し、他者との関係を構築していく中で、悩んだり迷ったりした時に、県医師会が相談相手の一人になればと思います。この窓口を設けました。

先生方の悩みには、指導医や先輩医師等、相談にのってくれる方はいらっしゃると思いますが、少し離れた場所からの意見も聞きたいとか、各県にいる先生にはなじみづらいとか、こんな相談は誰にすればいいかわからないなどに、「医師会なんでも相談窓口」にメールをくださいれば、相談相手を選んで回答をメールでお返事いたします。

個人情報の取扱いには十分注意して相談にお伺いしますが、県医師会の理事等では内容を共有して回答する担当を決定する予定ですので、このシステムをご理解いただき、相談内容について特に共有されたくない対象がある場合は、その旨をご記入のうえお知らせください。

【相談内容】

進路、人間関係、妊娠出産、子育て、介護、引っ越し、留学、休職復帰、キャリアアップ 等

男性医師、女性医師問わずご相談ください。

【相談の方法】

下記のメールアドレスにお名前と相談内容を記載のうえ送信ください。お送りいただいたメール内容から相談相手を決定のうえ回答いたします。

※匿名でのご相談はご遠慮ください。また緊急性の高い相談は対応が滞る、もしくは対応いたしかねる場合がございますのでご了承ください。

相談先メールアドレス

shiga.med.soudan@gmail.com

QRコードからも
メール送信できます

滋賀県医師会「医師会なんでも相談窓口」

入会・ご寄附のご案内

皆様からの会費とご寄附金を財源として活動を進めてまいります。出費がかさむ折とは存じますが「地域医療を担う医学生看護学生の育成支援事業」にご支援いただける方々のご協力をお願いいたします。

会員は

会員の種類		会費	入会金 (初年度のみ)
正会員	個人	年会費 2,000円 + 寄附金 3,000円以上	5,000円
	団体	年会費 5,000円 + 寄附金 5,000円以上	10,000円
賛助会員		毎年 1,000円以上 できたら 3,000円以上	

ご寄附・賛助会費をご入金された方は「税制上の優遇措置」【寄附金控除、または寄附金特別枠控除（税制控除）】を受けることができます。

ご入金された方には「寄附金の受領書」を郵送しますので大切に保管いただき、確定申告時には、「申告書」に「寄附金の受領書」を添え最寄りの税務署にご提出ください。

なお、詳細につきましては、最寄りの税務署にお問い合わせください。

編集後記



桜の開花直前に行われた、大津市・湖南方面の宿泊研修（日帰り）を特集しました。研修では積極的に参加する学生の姿が印象的でした。たくさんの質問に、熱心に答えてくださった訪問先の皆さま、本当にありがとうございました。

今号は滋賀県内高校へもお送りします。医師・看護師を目指す高校生にも近い将来この研修と一緒に参加して、滋賀の医療と文化や歴史を学び、滋賀の魅力に触れて欲しいと願っています。



NPO法人滋賀医療人育成協力機構 広報誌「めでる」vol.22

発行：2023年9月30日
編集：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構
所在地：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内
TEL：077-548-2168
URL：<https://www.shiga-iryo-ikusei.jp/>